

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBI小型成長株ファンド ジェイクール（愛称：jcool）」は2020年12月22日に第15期決算を行いました。

当ファンドは、小型成長株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引市場に上場する中小型株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして積極的な運用を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

### 第15期末（2020年12月22日）

|            |          |
|------------|----------|
| 基準価額       | 16,336円  |
| 純資産総額      | 7,375百万円 |
| 第15期       |          |
| 騰落率        | △ 5.3%   |
| 分配金（税込み）合計 | 0円       |

（注1）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

（注2）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

（注3）当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>  
右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択 ⇒ 「目論見書・定期レポート等」を選択 ⇒ 「運用報告書（全体版）」より該当の決算期を選択ください。

# SBI小型成長株ファンド ジェイクール （愛称：jcool）

追加型投信／国内／株式

## 交付運用報告書

第15期（決算日：2020年12月22日）

作成対象期間（2019年12月24日～2020年12月22日）

 **SBI Asset Management**

**SBIアセットマネジメント株式会社**

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

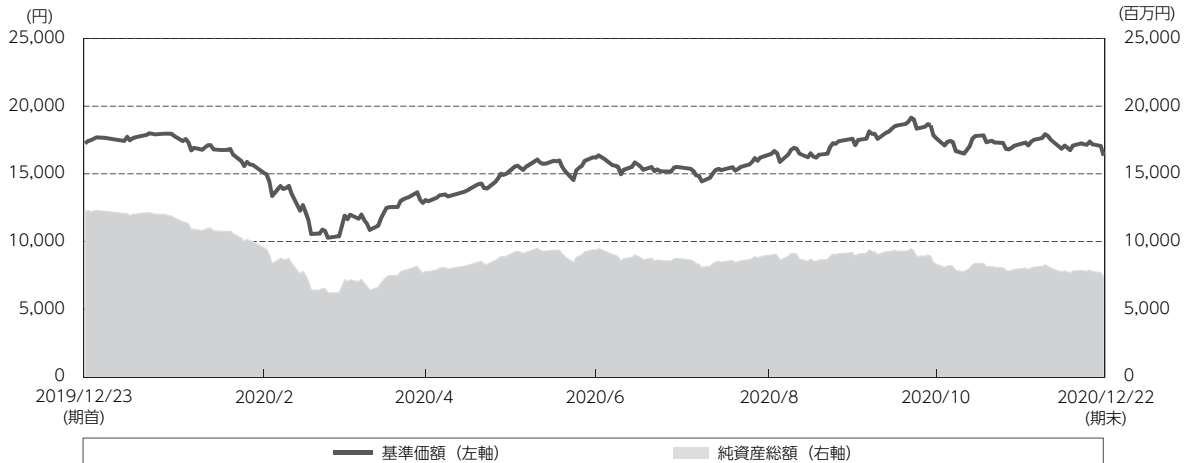
ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiasset.com/jp/>

## 運用経過

## 基準価額等の推移

(2019年12月24日～2020年12月22日)



期 首：17,246円

期 末：16,336円 (既払分配金 (税込み) : 0円)

騰 落 率：△5.3% (分配金再投資ベース)

(注1) 当ファンドは、新規公開といういわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は期首17,246円からスタートし、年明け直後は堅調さを維持したものの、新型コロナウイルスの感染拡大を受け世界的に株価が急落すると、当ファンドも急落し2020年3月19日に期中最安値となる10,284円を付けました。その後は、相場の戻りと共に反発しました。特に中小型グロース株が選好されたことから当ファンドも大きく値を戻しました。期の中旬は、新柄コロナウイルスの感染再拡大への警戒感に加え、米ナスダック指数の上昇一服を受けてハイテク銘柄を中心に利益確定売りが出たことなどから、当ファンドも調整しました。

期の後半は、米株高や企業業績の底打ち期待などを受け反発した後、成長期待の高い中小型株や新規株式公開 (IPO) 銘柄を物色する動きが加速したことから、当ファンドも上昇基調となりました。中小型グロース株の優位が続き10月中旬に東証マザーズ指数が2006年8月下旬以来の高値を付けると、当ファンドも10月14日に当期最高値となる19,149円を付けました。期末にかけては、リターンリバーサル動きが強まり、これまで上昇してきた中小型グロース株が下落に転じたことから当ファンドは上値の重い展開となり、結局16,336円で期末を迎えました。

## 1 口当たりの費用明細

(2019年12月24日～2020年12月22日)

| 項 目                   | 当期      |         | 項 目 の 概 要                                 |
|-----------------------|---------|---------|-------------------------------------------|
|                       | 金 額     | 比 率     |                                           |
| (a) 信 託 報 酬           | 292     | 1.865   | (a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率                   |
| ( 投 信 会 社 )           | ( 165 ) | (1.053) | 委託した資金の運用の対価                              |
| ( 販 売 会 社 )           | ( 115 ) | (0.735) | 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 |
| ( 受 託 会 社 )           | ( 12 )  | (0.077) | 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価                   |
| (b) 売 買 委 託 手 数 料     | 26      | 0.165   | (b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数          |
| ( 株 式 )               | ( 26 )  | (0.165) | ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料         |
| (c) そ の 他 費 用         | 1       | 0.006   | (c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数              |
| ( 監 査 費 用 )           | ( 1 )   | (0.006) | 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用               |
| ( そ の 他 )             | ( 0 )   | (0.000) | 信託事務の処理等に要するその他費用                         |
| 合 計                   | 319     | 2.036   |                                           |
| 期中の平均基準価額は、15,647円です。 |         |         |                                           |

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入しております。

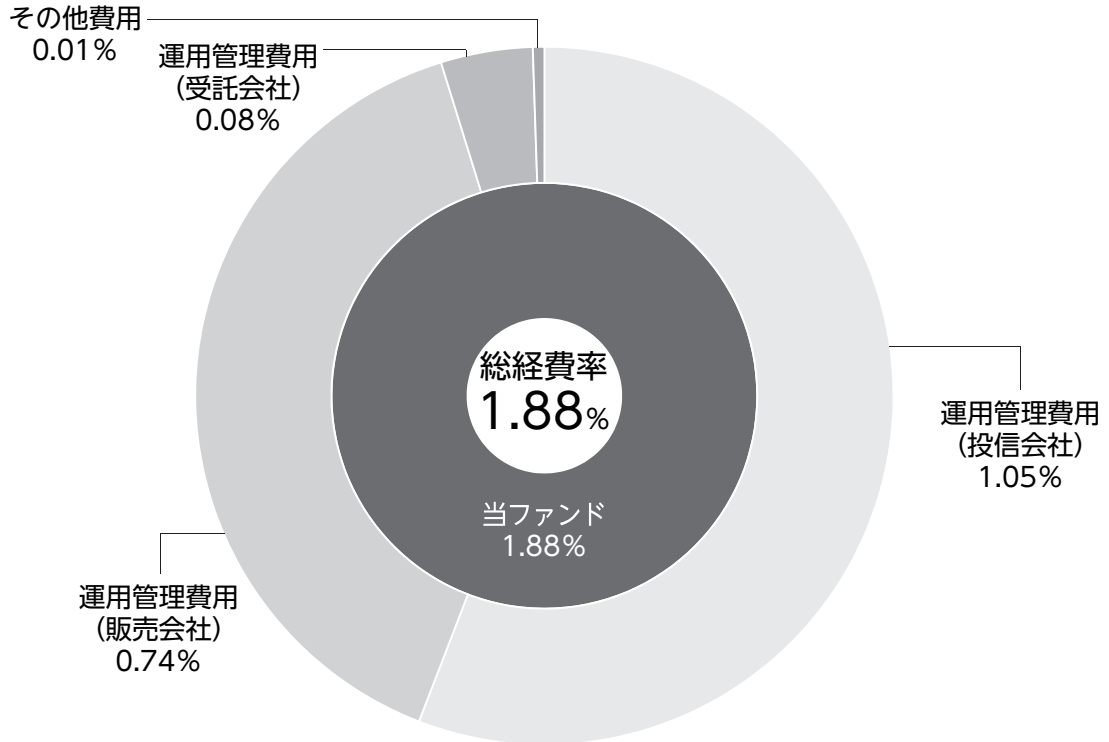
(注4) 売買委託手数料及びその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注5) 各比率は1口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## (参考情報)

## ○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.88%です。**



(注1) 上記費用は、1口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

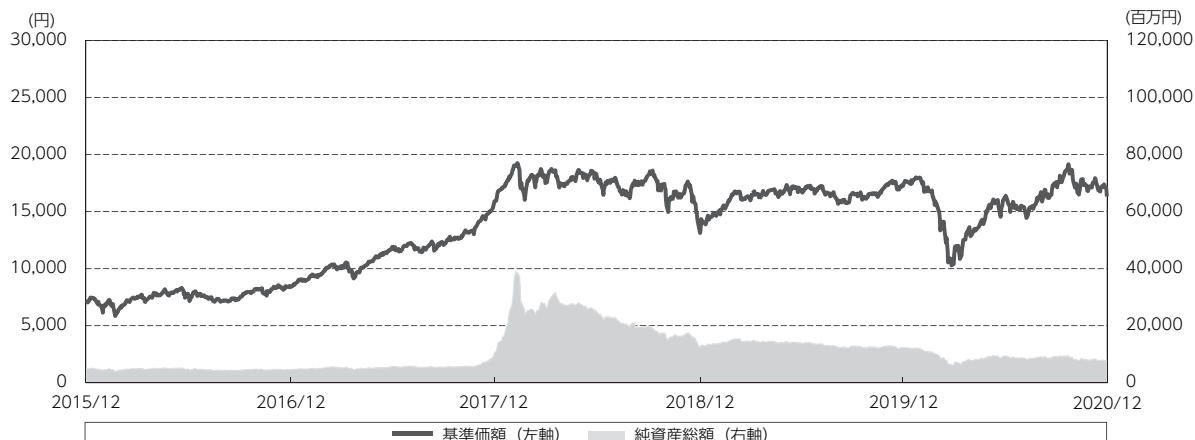
(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2015年12月22日～2020年12月22日)



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

|                   | 2015年12月22日<br>期首 | 2016年12月22日<br>決算日 | 2017年12月22日<br>決算日 | 2018年12月25日<br>決算日 | 2019年12月23日<br>決算日 | 2020年12月22日<br>決算日 |
|-------------------|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 基準価額 (円)          | 7,264             | 8,390              | 15,889             | 13,130             | 17,246             | 16,336             |
| 期間分配金合計 (税込み) (円) | —                 | 0                  | 0                  | 0                  | 0                  | 0                  |
| 基準価額騰落率 (%)       | —                 | 15.5               | 89.4               | △17.4              | 31.3               | △5.3               |
| 純資産総額 (百万円)       | 4,953             | 4,563              | 10,408             | 12,348             | 12,207             | 7,375              |

(注1) 当ファンドは、新規公開といういわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

**投資環境**

(2019年12月24日～2020年12月22日)

当期の国内株式は、地政学リスクへの警戒感から下落する局面もあったものの、2月中旬までは高値圏での推移でスタートしましたが、中国武漢市で発生した新型コロナウイルスの感染が世界規模で急拡大したことをきっかけに急落しました。新型コロナの感染拡大が止まらないなか米欧の中央銀行が追加金融政策を打ち出したものの、原油安や米国リセッション懸念の高まりを背景に不安定な相場が続ぎ、日経平均株価は3月に1万6千円台まで下落しました。しかし、日銀が大規模な上場投資信託 (ETF) の買入を行うと下げ止まり、さらに米国の大型経済政策の成立期待などから反発に転じました。その後も、欧米での新規感染者数の鈍化や、米連邦準備理事会 (FRB) による迅速かつ大規模な金融支援策、国内での緊急事態宣言の解除などを好感して急速に値を戻しました。

期の後半は、新型コロナの感染第2波の懸念もあり、一進一退の動きが続いたあと、米株高や企業業績の底打ち期待などを受け、緩やかに上昇しました。安倍首相の辞任報道を受け急落する局面もありましたが、後任総裁が菅氏になるとの見方が広まると政策の継続性への安心感から反発しました。その後は、欧米での新型コロナの感染再拡大などを嫌気して上値が重くなりましたが、11月に米大統領選を通過して米国政治の不透明感が後退したことに加え、新型コロナのワクチン開発報道を受けてリスクオフの動きが強まると一気に急伸し、日経平均株価は12月上旬に2万6千円台後半まで上昇しました。一方でリターンリバーサル動きが強まったことから、10月中旬まで上昇してきた中小型のグロース株は牙えない展開となりました。期末にかけては、利益確定売りに加え、新型コロナの変異種への警戒感等から上値が重くなりました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2019年12月24日～2020年12月22日)

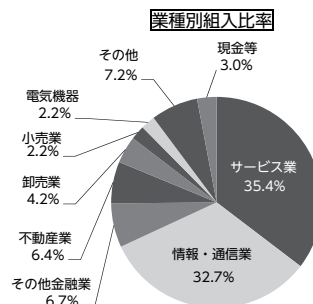
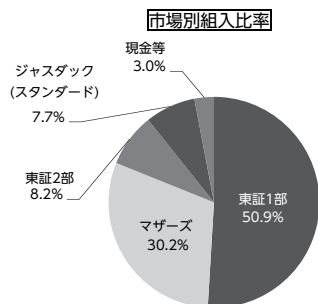
## &lt;当ファンド&gt;

主要投資対象である小型成長株・マザーファンド受益証券を高位に組入れて運用いたしました。

## &lt;小型成長株・マザーファンド&gt;

エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社の助言をもとに投資判断を行い、運用いたしました。投資を行った銘柄は、わが国の株式のうち、新規公開といういわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」です。原則、公開後3年以内の企業を投資対象としています。ボトムアップ調査を行った銘柄のうち、成長性・収益性・安全性・革新性・株価水準等を総合的に評価判断し、おおむね50銘柄を組入れ、逐次銘柄見直しを行いました。また、銘柄分散、時間分散を考慮し、1銘柄で最も組入比率が高いものでも4%程度としました。

なお、株式の組入比率に関しては、おおむね95%以上を維持しました。期末の株式組入比率は97.0%となっております。



※組入比率はマザーファンドの純資産総額比です。四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

**当ファンドのベンチマークとの差異**

(2019年12月24日～2020年12月22日)

当ファンドは、新規公開といういわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数を採用していません。

**分配金**

(2019年12月24日～2020年12月22日)

当期は、当ファンドの収益分配方針に基づき、収益分配可能額を算出し、市況動向や基準価額等を考慮した結果、当期の収益分配は行わないことといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

**○分配原資の内訳**

(単位: 円、1口当たり、税込み)

| 項 目       | 第15期                        |
|-----------|-----------------------------|
|           | 2019年12月24日～<br>2020年12月22日 |
| 当期分配金     | —                           |
| (対基準価額比率) | —%                          |
| 当期の収益     | —                           |
| 当期の収益以外   | —                           |
| 翌期繰越分配対象額 | 6,335                       |

(注1) 対基準価額比率は、当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の見通しと運用方針

### <当ファンド>

引き続き小型成長株・マザーファンドを高位に組入れる方針で運用してまいります。

### <小型成長株・マザーファンド>

引き続きエンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社の投資助言に基づき、革新的高成長が期待される企業へ投資を行い、信託財産の成長を目指します。

なお、当該マザーファンドに投資助言を行っているエンジェルジャパン・アセットマネジメントでは、以下のようにコメントをしています。

当期（2019年12月24日～2020年12月22日）の日本株式市場は、2月から3月にかけて新型コロナウイルスの感染拡大やその経済への影響が懸念されて急落しました。しかしその後は、ワクチンの開発や景気対策、企業収益回復への期待から回復に転じ、年末にかけて上昇基調を強めました。これを牽引したのはグロース銘柄と呼ばれる成長株です。すなわち、先行きの不透明感が強まる中では、景気連動ではなく自力で成長できる企業に高い評価が集まったと考えられます。

現在、わが国は大きな構造変化の真っただ中にあります。例えば、コロナ禍によって人々の生活様式は大きく変わり、企業も大きな変革を迫られました。とりわけ“DX”（デジタルトランスフォーメーション：デジタル技術による業務やビジネスの変革）は大きなキーワードになり、これに対応できない企業は生き残れないと言われるほどです。過去にない構造変化が起きている中で、DX関連のサービスを展開している企業に大きな商機が到来しているのは間違いないでしょう。もちろん、DX関連だけでなく、このような変革期には数多くのビジネスチャンスがあり、特に新たな発想で事業展開する新興成長企業にとっては大きな追い風となっています。

ただし実体以上に株価が過大評価されている企業が散見されるのも事実ですので、今後投資家には玉石混交を見極める力が問われることとなります。当ファンドといたしましても、引き続き個別直接面談を中心とした積極的な調査活動を行うことで、真に実力のある成長企業を厳選し続けてまいります。

お知らせ

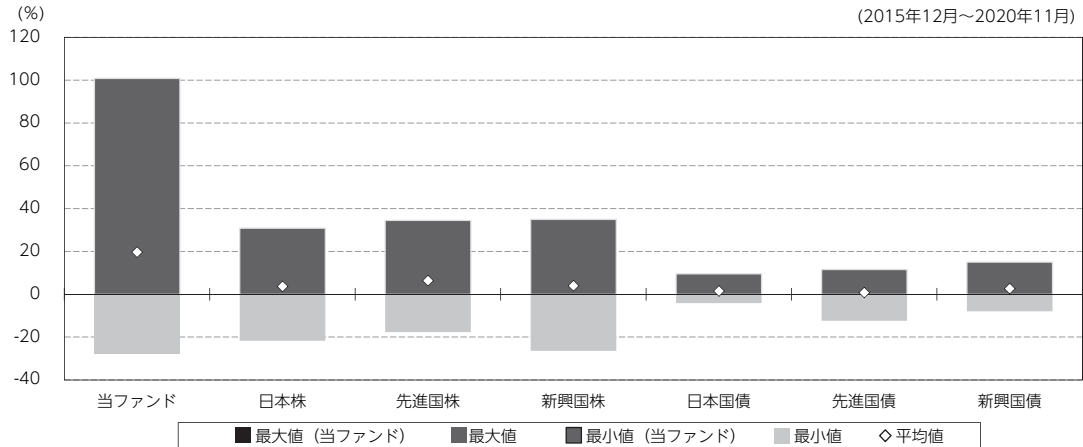
該当事項はありません。

当ファンドの概要

|         |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                         |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 商 品 分 類 | 追加型投信／国内／株式                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                         |
| 信 託 期 間 | 原則として無期限（クローズド期間はあります）                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                         |
| 運 用 方 針 | 小型成長株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、信託財産の中長期的な成長をめざして積極的な運用を行います。                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                         |
| 主要投資対象  | 当　フ　ァ　ン　ド<br>（　ベ　ビ　ー　フ　ァ　ン　ド　）                                                                                                                                                                                                                  | 小型成長株・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資することもあります。                                                                                                      |
|         | マ　ザ　ー　フ　ァ　ン　ド                                                                                                                                                                                                                                   | わが国の金融商品取引所上場株式のうち中小型株を主要投資対象とします。                                                                                                                      |
| 運 用 方 法 | 当　フ　ァ　ン　ド<br>（　ベ　ビ　ー　フ　ァ　ン　ド　）                                                                                                                                                                                                                  | 主として、小型成長株・マザーファンド受益証券に投資し、信託財産の積極的な成長をめざして運用を行います。<br>なお、マザーファンド受益証券の組入れ比率は、原則として高位を維持します。                                                             |
|         | マ　ザ　ー　フ　ァ　ン　ド                                                                                                                                                                                                                                   | わが国証券取引所上場株式のうち中小型株を主要対象とし、投資を行います。<br>また、株式の投資に際しては、新規公開といういわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」を厳選して分散投資します。<br>なお、外貨建資産への投資は行いません。 |
| 分 配 方 針 | 年1回（毎年12月22日。ただし、休業日の場合は翌営業日。）決算を行い、原則として以下の方針に基づいて収益の分配を行います。分配対象額の範囲は経費控除後の利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。収益分配対象額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。なお、収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。 |                                                                                                                                                         |

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

|     | 当ファンド  | 日本株    | 先進国株   | 新興国株   | 日本国債  | 先進国債   | 新興国債  |
|-----|--------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|
| 最大値 | 100.8  | 30.9   | 34.5   | 35.0   | 9.5   | 11.6   | 15.0  |
| 最小値 | △ 27.8 | △ 21.7 | △ 17.6 | △ 26.4 | △ 4.1 | △ 12.3 | △ 8.0 |
| 平均値 | 19.7   | 3.7    | 6.4    | 4.0    | 1.5   | 0.8    | 2.7   |

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。  
(注2) 2015年12月から2020年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。  
(注3) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《代表的な各資産クラスの指数》

日本株…Morningstar 日本株式指数  
先進国株…Morningstar 先進国株式指数 (除く日本)  
新興国株…Morningstar 新興国株式指数  
日本国債…Morningstar 日本国債指数  
先進国債…Morningstar グローバル国債指数 (除く日本)  
新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債指数

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て税引前利子・配当込み指数です。

\*各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2020年12月22日現在)

## ○組入上位ファンド

| 銘柄名           | 第15期末     |
|---------------|-----------|
| 小型成長株・マザーファンド | %<br>99.6 |
| 組入銘柄数         | 1 銘柄      |

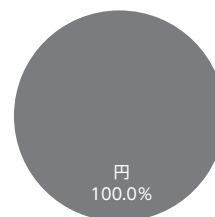
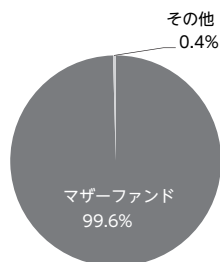
(注1) 組入比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

## ○資産別配分

## ○国別配分

## ○通貨別配分



(注1) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

## 純資産等

| 項目        | 第15期末          |
|-----------|----------------|
|           | 2020年12月22日    |
| 純資産総額     | 7,375,102,962円 |
| 受益権総口数    | 451,463口       |
| 1口当たり基準価額 | 16,336円        |

(注) 期中における追加設定元本額は1,150,770,000円、同解約元本額は3,714,430,000円です。

## 組入上位ファンドの概要

## 小型成長株・マザーファンド

## 【基準価額の推移】

(2019年12月24日～2020年12月22日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2019年12月24日～2020年12月22日)

| 項目                         | 当 期          |                   |
|----------------------------|--------------|-------------------|
|                            | 金額           | 比率                |
| (a) 売買委託手数料<br>(株 式)       | 33円<br>( 33) | 0.166%<br>(0.166) |
| (b) そ の 他 費 用<br>( そ の 他 ) | 0<br>( 0)    | 0.000<br>(0.000)  |
| 合 計                        | 33           | 0.166             |
| 期中の平均基準価額は、19,909円です。      |              |                   |

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

## 【組入上位10銘柄】

(2020年12月22日現在)

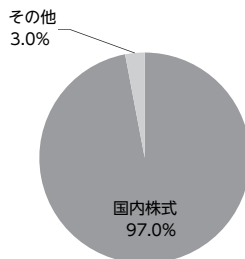
|       | 銘 柄 名                  | 業種/種別等 | 通貨    | 国 (地域) | 比率 (%) |
|-------|------------------------|--------|-------|--------|--------|
| 1     | ジャパンエレベーターサービスホールディングス | サービス業  | 円     | 日本     | 3.8%   |
| 2     | インソース                  | サービス業  | 円     | 日本     | 3.8%   |
| 3     | マネジメントソリューションズ         | サービス業  | 円     | 日本     | 3.7%   |
| 4     | SREホールディングス            | 不動産業   | 円     | 日本     | 3.7%   |
| 5     | イントラスト                 | その他金融業 | 円     | 日本     | 3.4%   |
| 6     | システムサポート               | 情報・通信業 | 円     | 日本     | 3.4%   |
| 7     | プレミアグループ               | その他金融業 | 円     | 日本     | 3.4%   |
| 8     | ピアラ                    | サービス業  | 円     | 日本     | 3.4%   |
| 9     | カナミックネットワーク            | 情報・通信業 | 円     | 日本     | 3.3%   |
| 10    | ABホテル                  | サービス業  | 円     | 日本     | 3.3%   |
| 組入銘柄数 |                        |        | 51 銘柄 |        |        |

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

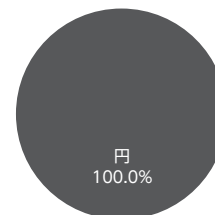
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2020年12月22日現在のものです。

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

### <各指数の概要>

- 日本株：Morningstar 日本株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
- 先進国株：Morningstar 先進国株式指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。
- 新興国株：Morningstar 新興国株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。
- 日本国債：Morningstar 日本国債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
- 先進国債：Morningstar グローバル国債指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
- 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

### <重要事項>

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含む Morningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。